

## 〔編集後記〕

暑い夏を迎えましたが、今号にも、多彩に展開される「千葉医学」の現況が活写され、頼もしい限りです。読者諸氏におかれましても手応えを感じて頂けたかと存じます。

申し上げるまでもなく、「最終講義」の壇上に立たれた徳久剛史先生は、現在は千葉大学長、すでに「名学長」との誉れ高く、ご同慶の至りです。ますますのご活躍をお祈り致しますと共に、相変わらぬ「千葉医学」へのご支援ご鞭撻をお願い致します。

さて、これも多くの方はご存知の様に、この3月に千葉医学会の事務室は、竣工後間もない新るのはな同窓会館に引っ越しました。場所は医学部本館正面に向かって左手直ぐ図書館の斜め前です。



手前の談話室の上にホールがそびえる  
事務室はホールの向こう側

白を基調とした建物の明るい窓には緑があふれております。今号の編集作業もこの新しい部屋で行われました。あのはな同窓会、猪之鼻奨学会と事務室を共有しており3会のいっそうの連携も進んでおります。

千葉医学会総会も、さる6月、100人収容の多目的ホールで開催され、場をさらに会議室に移して懇親会も行われるなど、機能的にも良く考えて設計されております。学生の合宿にも使える和室の談話室5部屋も備わっております。亥鼻キャンパスにお越しの折は是非お立ち寄り下さい。

(編集委員 瀧口正樹)



ホールからの眺め



会議室からの眺め



事務室エントランス



編集風景